

自社一貫生産で品質に徹底的にこだわる手作りランドセル

株式会社鞆工房山本 奈良県橿原市

万葉集にも歌われる天香久山（奈良県橿原市）^{あまのかぐやま}の山麓でランドセル製造一筋に40年以上取り組む『株式会社鞆工房山本』（代表取締役・山本一彦氏）。本社工房は現在唯一の直販店も兼ねており、遠方からも多くの購入客が訪れる。

今春、県が奈良ブランドの振興を後押しする「奈良くらしくす」の認定も受け、いま全国的に人気のランドセルメーカーだ。



緑に囲まれた本社工房兼直販店（上）



直販店内部に並ぶランドセルの数々（下）

1949年、山本社長の父・庄助氏が兄と大阪で鞆製造を開始。革が配給制で入手困難だったため、統制が緩かった故郷の橿原市へ戻りビジネス鞆製造を手掛けた。67年に兄と離れランドセル専業として独立。99年に山本社長が事業を継いだ。

年々利益率が薄くなる一方の卸相手商売から脱却するため、00年に自社企画オリジナル製品の製造直販を開始。03年には自社サイトを開設しインターネット直販を始めた。

サイトへのアクセス状況や検索キーワードを分析し、閲覧者が茶色やキャメル色への関心が高いとわかるとそれらの色を独立ページで特集するなど、販売促進に様々な工夫を重ねたという。

06年に法人化。口コミで全国からの注文が増えてここ数年は毎年数十%の成長率で増収増益を続け、昨年度の売上高は3億4千万円、20名以上の従業員（パートも含む）を抱えるまでになった。

鞆業界では各工程を業者間で細かく分業するのが通例だが、同社では裁断から仕上げまですべて自社一貫生産し品質を確保している。また、耐久性や風合いの観点から天然皮革のみを使用。ラン

ドセルのかぶせ（蓋）の端は、「コバ塗り」という紳士鞆や高級革財布などで用いられる丁寧な仕上げをしており、同業者から「よくそこまで手間のかかることを」と驚かれるという。



ランドセルのかぶせで、これだけのコバ面は他では見ることができません。良いランドセルを作るためには、手間を惜しみません。【工房主】

切断面を磨いてニスを何度も重ね塗りする「コバ塗り」

平均単価5万円弱と比較的高価な同社製品が売れている理由は、品質を重視する本物志向の消費者が、前述のような先代から続く同社の徹底的なこだわりを評価しているからだ。



品質やデザイン力は学校関係者にも評判で、今年4月に京都府木津川市に開校した「同志社大学附属同志社国際学院初等部」のランドセル（左写真）のデザイン・製作は、同社が請け負った。

現在、売上の95%はネットを通じての直販だが、そのうち3割を首都圏の顧客が占めている。直接商品を見たいとの顧客ニーズに応えるため、近い将来、東京に直営店を開設する予定だという。

そうした積極展開も見込んで、今年初めて新卒大学生を募集し、数名を来春入社社員として採用した。「会社説明会も初めて開催したが、ぜひ鞆作りをしたいという情熱を持った若者が沢山集まりうれしかった」と山本社長は顔をほころぼせる。

今後はランドセル以外のバッグや革小物類の製造にも本格的に進出予定。品質を追求した真摯なものづくりで、奈良の地から全国の目の肥えた消費者に発信を続けていきたいという。

（吉村 謙一）



株式会社鞆工房山本

〒634-0022 奈良県橿原市南浦町 873-1
TEL: 0744-23-0789 FAX: 0744-23-0779
URL: <http://www.kabankobo.com>